

財団法人横浜市ふるさと歴史財団 平成22年度事業計画

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

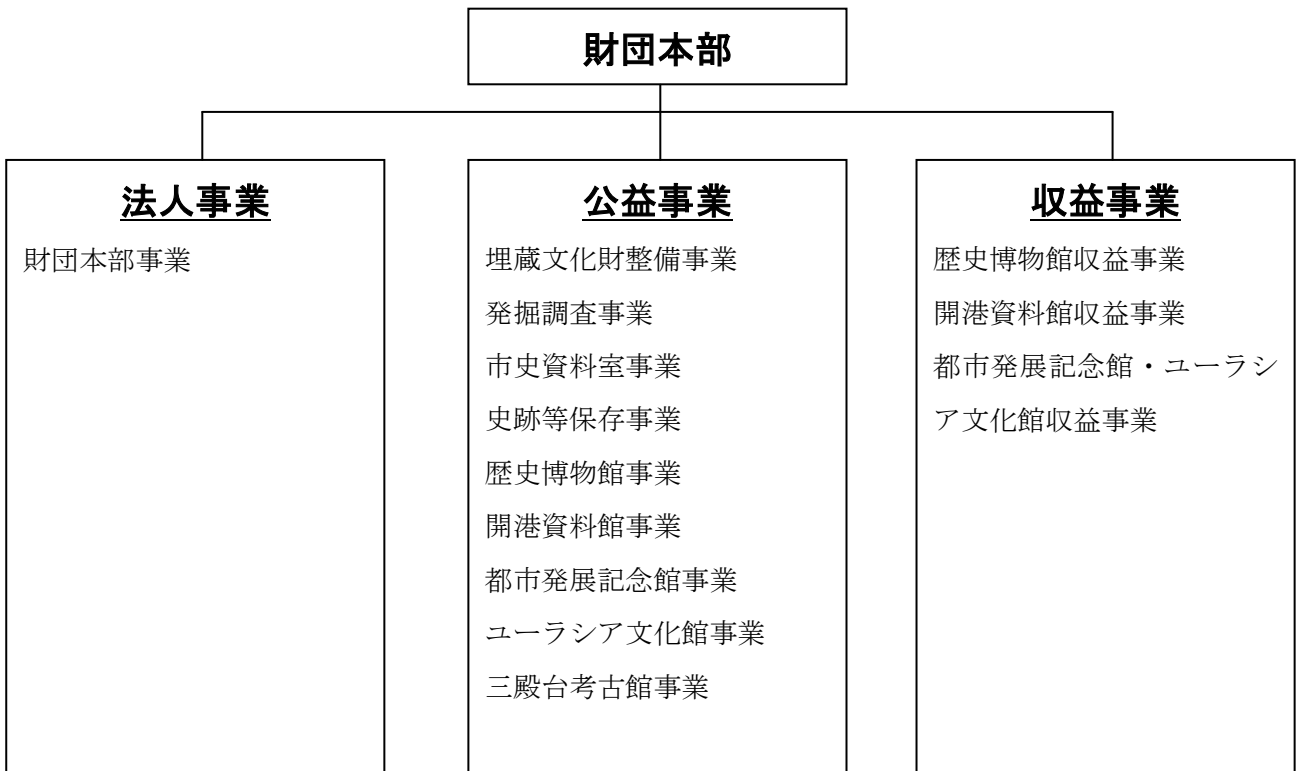
はじめに

当財団は、横浜市との連携のもとに、市民のふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的に、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を進めています。

日頃から歴史に親しんでいる人々にも、普段歴史に触れる機会のない人々にも、横浜開港150周年を契機に親しみ楽しんでいただいた歴史を、後世へ伝え残していくために、企画展、出版、講座・講演会をはじめとする普及啓発事業やイベント事業に、施設連携を強化し、財団の総力をあげて取り組んでいきます。

また、平成20年12月からの公益法人制度改革により、当財団は特例民法法人となりましたが、公益財団法人の認定の取得と次期指定管理者の獲得に向けて取り組んでいきます。

これまでも、横浜市の文化行政の一翼を担いつつ各種の事業を展開してきましたが、今後もPDCAサイクルなどにより自己点検を怠らず、より魅力的な事業を展開し、歴史や文化財の普及啓発に取り組んでいきます。



法 人 事 業

I 財団本部事業

[運営方針]

指定管理施設をはじめ当財団の運営管理を統括するとともに、各施設が連携して行う事業について全体調整を行うほか、財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事会・評議員会運営事務、その他本部事務を行います。

また、公益法人制度改革に伴い、当財団も**公益財団法人への移行**を目指すとともに、**次期指定管理獲得**のため、現行の5施設について提案書を提出いたします。

1 財団本部事業（寄附行為第4条第8号）

上記の方針に基づき、以下の事業を行います。

- (1) 指定管理施設が連携して行う事業の全体調整
- (2) 理事会・評議員会の開催等
- (3) 財団人事・労務・財務の管理、研修の実施等
- (4) 財団外部評価委員会に関すること
- (5) 公益認定取得に関すること
- (6) 次期指定管理獲得に関すること
- (7) その他本部事務

公益事業

I 埋蔵文化財整備事業

[運営方針]

埋蔵文化財センターで、港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。出土品・記録類は適正に保管し、展示・講座等に活用します。また、政府の緊急雇用創出事業の一環として、出土品保管再整備事業を実施し、事業を促進します。

一方、埋蔵文化財センターの調査・研究の成果を市民に還元するとともに、埋蔵文化財保護への一般の関心を高めるため、広報誌発行や遺跡見学会の開催・展示・講演会・資料貸出等を行うほか、歴史博物館での講演会や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会なども実施していきます。

なお、埋蔵文化財センターは平成21年11月に、栄区の旧野七里小学校へ移転・開所しましたが、これにともない市内各地に収蔵している資料についても当センターへ集約するとともに、地域での講座・体験学習なども実施していきます。

1 埋蔵文化財整備事業（寄附行為第4条第1・5号）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめるほか、昨年度に引き続き、写真資料等のデジタル化・出土品保管状況の改善事業を実施します。

(1) 遺物整理・調査研究

項目	対象遺跡等	所在地
遺物整理・調査研究	大榑杉山神社遺跡の編集・刊行	都筑区中川中央1丁目
	大原遺跡の整理（1／2年次）	都筑区早淵1丁目
	加賀原遺跡の整理（1／3年次）	都筑区加賀原1丁目
	神隠丸山遺跡出土品の基礎整理（1／4年次）	都筑区早淵1丁目

(2) 報告書発行

項目	対象遺跡等	所在地
発掘調査報告書発行	大榑杉山神社遺跡	都筑区中川中央1丁目



遺物整理



講座の様子



横浜の遺跡展

(3) 資料保管・整理

項目	目的・意図
記録資料デジタル化	記録資料のデジタル化と整理を行い、写真資料については利用の利便性向上と普及啓発・資料貸出などの業務に資する。
出土品等保管再整備	収蔵・保管されている出土品について整備し、保管状況の改善をはかる。
図書等の受入れ・整備	受贈図書等の受入れ、整理、保管、カード化などの整備を行い、市民の利用に供する。
埋蔵文化財（自然遺物）水洗・選別事業（緊急雇用創出事業）	政府の緊急雇用創出事業として、貝塚より採取してきた貝類、獣・魚骨等の自然遺物及び人工遺物を水洗・選別し、保管する。

2 普及啓発事業（寄附行為第4条第2・5号）

広報誌発行や遺跡見学会・体験学習の開催・展示・講演会等を行います。また、講演会や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会なども実施していきます。

項目	参加者見込数	目的・意図
平成23年度地域遺跡展資料調査事業	—	平成23年度に開催を予定している地域遺跡展のための資料調査を行う。都筑・青葉・港北・緑区の4区を除く14区を4ブロックに分け、写真パネルおよび遺物の展示を行い、該当地域の埋蔵文化財を紹介する。今回は南・港南区を中心とする地域を対象とする。
企画展の開催 「横浜の遺跡展」 平成22年12月11日（土） ～平成23年1月10日（月・祝）	3,000人	港北ニュータウン文化財整備事業のうち、整理作業が終了し調査報告書を刊行した遺跡、あるいは発掘調査事業で調査を実施した中で話題性のある遺跡について速報的に紹介する。無料。 会期中研究講座を1回実施する。 会場：横浜市歴史博物館
考古学講座 平成22年11月11日（木） ・11月18日（木）（連続2回）	140人	専門職員を講師として埋蔵文化財に関する講座を開催する。事前に広報パネル展を実施する。 会場：横浜市歴史博物館
体験学習 6・7・8・12・2月 最終土曜日を原則とし、一部日曜日にも開催する。各開催日も午前午後の2回。	150人 各回15人	体験型の普及啓発活動を通して、参加者の興味を惹くことで、埋蔵文化財の理解を深める。 会場：埋蔵文化財センター 地区センター等、地域への出前も実施予定
広報誌等の発行		「埋文よこはま」を発行する。 (発行11,000部、年2回)
		リーフレットを作成する。(発行15,000部)

遺跡見学の案内		笠間中央公園遺跡・長尾城跡・茅ヶ崎城跡・稲荷前古墳群・市ヶ尾横穴墓群等への見学者の案内を行う。
資料の貸出・展示		写真フィルムのデータの貸出を行う。
		学校・地区センター・区役所等で地域に関連する遺物等の貸出・展示を行う。
講師派遣		文化団体、サークル等の講演会へ専門職員を派遣する。



緊急雇用創出事業



「リリスの大冒険」での展示



体験学習

II 発掘調査事業

1 発掘調査事業（寄附行為第4条第3号）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を、横浜市等から受託します。

(1) 発掘調査

項目	対象遺跡等	委託者／所在地
瀬戸神社旧境内地内遺跡調査	金沢八景駅東口地区土地区画整理事業に伴う発掘調査。	横浜市都市整備局 横浜市金沢区瀬戸
三溪園内苑流れ試掘調査	国指定史跡三溪園の庭園修復工事関連調査。	(財)横浜市三溪園保勝会 横浜市中区本牧三之谷

(2) 整理報告

項目	対象遺跡等	委託者／所在地
金沢高校内貝塚整理報告	横浜市立金沢高校の排水管理設に伴う出土品等の整理報告。	横浜市教育委員会 横浜市金沢区瀬戸

Ⅲ 市史資料室事業

[運営方針]

開港150周年を終え、歴史資料に対する市民ニーズがますます高まるなか、横浜市史編纂事業で収集・保管された資料の保管・整理を行うとともに、資料の閲覧・展示を行います。また、歴史的に重要な行政資料や昭和期以降の歴史資料の収集、調査や新規資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。

なお、体制についても平成22年度から有期雇用職員を一部正規化し、一層の業務推進を図ります。

1 市史資料室事業（寄附行為第4条第1・2号）

上記の運営方針に基づき以下の事業を行います。

項目	利用者見込数	目的・意図
閲覧室運営	利用者 1200人 電話ファクス 300件 写真等貸出 150件	資料及び昭和期以降の横浜の歴史に関するレファレンスの対応を行う。
資料の保管・管理		資料を適切に保管・管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索性目録の処理を行う。
資料の収集、調査、整理		歴史的公文書および昭和期以降の歴史的資料の収集、調査および新規に受け入れた資料の整理を行う。また、資料のマイクロフィルム化を推進する。
情報発信、普及広報		
資料室内展示コーナー	6000人	市史資料室にて、資料の公開展示を行う。
展示会・講演会等の開催		2回のパネル展示会、1回の講演会等を行う。
市史通信の発行		3回発行し、市民への配布を行う。
目録・紀要の発行		各1冊の発行を行う。
ホームページ		ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、資料の電子公開を行う。 アクセス件数：10,000件

Ⅳ 史跡等保存事業

[運営方針]

横浜市八聖殿郷土資料館にて、漁具や農具を中心とした収蔵資料を公開し、また地域の市民や近隣小中学校への普及活動を実施します。また、市民にとって憩いの場となるよう、国指定史跡称名寺境内ほか計4史跡の保存を行います。

1 八聖殿郷土資料館事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市の歴史・文化財関連施設である当館の常設展示を公開するとともに、普及啓発事業を実施します。

項 目	利用者見込数	目的・意図
展示室運営	10,000 人	昭和8年建造の資料館で、八聖人像と市内旧農漁村で使用されていた漁具・民具を展示する。 観覧料：無料
講座の開催	240 人	市民対象に毎月1回（年12回）の連続講座を行う。また、3か月に1回（年4回）の集中講座を行う。 参加費：無料
歴史散歩の開催	40 人	連続講座で紹介した地域を中心に、年2回実際に現地を案内する。 参加費：無料
学校との連携	400 人	本牧地域の小学校と、八聖殿の活用について検討し、学校の校外学習として利用してもらう。
情報発信		ホームページおよびブログにより、八聖殿郷土資料館の情報や本牧地区について紹介する。また、リーフレット・チラシやポスターを周辺自治体へ配布し、本施設をPRする。

2 史跡保存事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市域の文化財である、国指定史跡称名寺境内・県指定史跡稲荷前古墳群・県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群・上行寺東遺跡復元整備地の維持管理を行います。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡 称名寺境内	所在地：金沢区金沢町
県指定史跡 稲荷前古墳群	所在地：青葉区大場町
県指定史跡 市ヶ尾横穴古墳群	所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	所在地：金沢区六浦二丁目

V 歴史博物館事業

[運営方針]

横浜市歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、また、学ぶのに寄与することを目指します。そのために、**高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深めて、市民の期待や要望に即した活動を幅広く展開していきます。**

本年度も、事業を積極的に展開する一方で、**市民との協働による市域民俗調査の実施、学校団体利用促進のための月曜日開館、集客イベント等を継続し、市民サービスの向上を図るとともに積極的な業務内容の改善、運営の効率化に努めていきます。**

また、新たに平成22年3月1日付で**企画普及担当の課長**を設置し、今まで以上に魅力ある企画展開催や市民・学校との連携の強化に努めてまいります。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

博物館の基幹となる事業であるので、寄贈資料の受入をはじめ積極的に資料の収集を進めていきます。

(1) 資料の収集

項 目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
実物資料の購入	企画展や常設展で使用する資料を収集。 購入予定：中世の交通・交易に関わる資料、近世の東海道などの交通・交易に関わる資料
レプリカ製作	市域に関する資料の複製等を行う。 複製予定：三輪田遺跡出土「大住団」関係木簡 鶴岡八幡宮文書「将軍足利義詮御内書」「細川頼之奉書」
マイクロ撮影	市域に関する古文書資料のマイクロフィルム化と整理を行う。 撮影予定：萩原家文書300点

(2) 資料の修繕

古文書の裏打ち、考古資料の修復、美術工芸資料の修復を行う。

上矢部村耕作絵図、赤羽刀（脇差）など

(3) 資料の保存

歴史博物館 I PMや燻蒸により、収蔵資料・展示資料の保存環境を維持するほか、資料保管箱・土器台座・帙^{ちつ}などの資料保管用品を作成する。

(4) 資料の整理活用

歴史博物館等で保管する考古・歴史・民俗資料の整理を進める。

収蔵資料および展示資料の写真撮影・整理を進め、貸出を行う。

実施予定：データ入力2,000点、写真撮影20件、写真整理・登録600件、インターネット公開50件、写真貸出60件、資料貸出10件、資料熟覧20件

(5) 図書資料の公開

一般図書文献の分類整理を進め、図書閲覧室での公開を行う。

実施予定：図書資料収集2,000点、分類データ入力2,000点

(6) 画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、収益の向上と魅力資源の活用を図る。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

市民協働の一環として、民俗調査（フィールドワーク）を市民調査員（仮称）とともに実施します。

(1) 調査研究

項目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究		
誠拙周樗関係資料の研究（3／3年次）	近世後期に白隠らとともに臨済禅復興に尽力した誠拙周樗について、誠拙資料とともに古月派の関係資料も収集し、近世後期に横浜で活躍した禅僧たちの事績を明らかにする。	誠拙および古月派に連なる臨済禅僧の資料の所在確認を行う。また、当館所蔵の誠拙関係資料の調査を行う。『調査研究報告書』や講座・講演会などで成果を公表してゆく。
軍記物語の研究（3／3年次）	当館所蔵の軍記物語をとりあげ、その資料的位置づけを考察する。	数多くの軍記物語を比較することで、所蔵資料を分析する。『調査研究報告書』や講座・講演会などで成果を公表してゆく。
基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究		
縄文時代漁労具の研究（2／2年次）	関東地方の縄文貝塚からは銚頭や釣針などの骨角製漁労具が多く出土するが、資料の豊富さに比べると研究は必ずしも進展していない。縄文時代の漁労具の集成・分析を行い、当時の漁労活動の一端を明らかにする。	横浜市域を中心に神奈川県内の資料（銚頭・ヤス・釣針）を報告書等から集成し、実地に観察を行う。企画展、講座・講演会などで成果を公表してゆく。
船釘の比較研究（3／3年次）	和船の建造に欠かせない船釘について、横浜市と他地域との差異、種類、製造、地域差などの視点から比較研究を実施する。	横浜市内の船釘について収集調査を実施するほか、他地域の事例について文献調査などを実施する。併せて比較のため他地域の現地調査も実施する。『調査研究報告書』や講座・講演会などで成果を公表してゆく。
市域の民俗調査（3／3年次）	市民協働事業の一環として、市民とともに、市域の民俗調査を実施する。	前年度に組織した「民俗に親しむ会」を組織し、市内のフィールドワークを実施する。組織した「民俗に親しむ会」とともに市民協働によるフィールドワークの輪を拡大する。

横浜の歴史をテーマにした調査研究：企画展に生かすための調査研究		
ムラに生きる人々	各時代の人々の生活・信仰などの諸相を明らかにする。	企画展に関する準備を行う。
人と物の流れ	陸の道・海の道を通してもたらされる文化の伝播にする。	企画展に関する準備を行う。
変わる横浜の姿	開発による景観の変化や人々の生活の変遷などを明らかにする。	企画展に関する準備を行う。

(2) 調査報告書の作成・刊行

調査研究で蓄積した基礎データ等の公開を行う。(800部)

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 展示物やビデオ機器類の保守点検、修繕等の管理を行う。

(2) 常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。(観覧者見込数 81,400人)

(ア) 収蔵資料ミニ展示：スタディサロンに、定期的に収蔵資料の展示紹介コーナーを開設し、学芸員が解説を行う。

(イ) 学芸員による常設展示解説：毎月最終土曜日に各時代の担当学芸員による展示解説を行う。

(ウ) 市内小中学校教員を対象にエドゥケーターが展示を教材とした授業例を実演する。

(エ) 展示解説員の配置にむけての検討を進める。

(3) 開館以降の資料収集などの成果を活用し、来館者の多様な要望に応えられるようリニューアルにむけての計画の検討を進める。

(4) 集客担当を設置して、一層、集客対策を進める。

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

企画展・特別展を実施するとともに、歴史散歩・関連シンポジウムなどの関連事業を展開していきます。

(1) 企画展・特別展

事業名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図、実施内容
企画展 「考古学ってなに？」 平成22年4月10日（土） ～5月23日（日）	21,000人	小学生の団体見学が集中する時期に合わせ、考古学とはどのようなものかを、わかりやすく展示していく。 ○講座・フロアレクチャー、親子向け展示解説の開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○遺跡見学バスツアーなど関連事業
企画展 「古墳時代の地域開発」 平成22年6月5日（土） ～7月11日（日）	9,000人	都筑区の矢崎山遺跡を中心に、古墳時代中期に耕地の開発を進めた人びとの姿を探る。 ○講座・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○遺跡見学バスツアーなど関連事業

企画展 「ちょっと昔を探してみようⅢ」 平成22年7月24日(土) ～9月5日(日)	7,000人	子供たちの世代と父母世代との暮らしぶりの違いを「紙芝居」を題材に紹介し、親子・家族で楽しめる展示とする。 ○講座・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○紙芝居の実演など関連事業
企画展 「近世横浜の新田開発」 平成22年9月18日(土) ～11月3日(水・祝)	6,000人	江戸時代に行われた吉田新田以外の市域の新田開発の実態を紹介していく。 ○講座・フロアレクチャーの開催 ○関連事業
テーマ展 「東海道と江戸時代の旅」 平成22年11月13日(土) ～11月28日(日)	1,000人	博物館で収集してきた東海道に関する資料を軸に、東海道の様子や旅の諸相を紹介していく。 ○講座・フロアレクチャーの開催 ○関連事業
「新指定文化財」展 平成22年12月11日(土) ～平成23年1月10日(月・祝)	3,500人	横浜市が平成21・22年度に指定・登録した文化財を公開し、市民に文化財指定・登録事業及び文化財保護活動への理解と関心を深めていただく。同時に中学校社会科作品展を開催する。無料。 ○講座・フロアレクチャーの開催 ○関連事業
企画展 「武相の中世城館」 平成23年1月29日(土) ～3月21日(月・祝)	7,000人	発掘調査が行われた茅ヶ崎城や小机城をはじめとした横浜の城郭を中心に、武蔵・相模地域の中世の城館を紹介していく。 ○講演会・フロアレクチャーの開催 ○図録の作成 ○関連事業

(2) 講座・講演会

項目	参加者見込数	目的・意図
古文書解読教室	各回40人	初心者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。連続10回。 平成22年10月1日(金)～12月3日(金)
古文書解読教室(上級編)	各回45人	上級者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。連続5回。 平成23年1月13日(木)～2月10日(木)

古代史講読講座	各回 45 人	専門職員を講師として古代史の基礎文献を読み解く。連続 5 回。 平成 23 年 1 月 13 日（木）～2 月 10 日（木）
開館記念特別講演会	170 人	博物館の開館 16 周年を記念して特別講演会を行う。 平成 23 年 2 月 6 日（日）
土器づくり教室	各回 20 人	港北ニュータウン地域内発見の縄文時代の土器をモデルに複製を試みる。市民協働の一環として、専門職員と横浜縄文土器づくりの会とが指導にあたる。全 4 回。 平成 23 年 2 月 13 日（日）～3 月 19 日（土） ○関連事業 土器づくり教室作品展

(3) 普及体験

項 目	参加者見込数	目的・意図
体験学習（日常）	60,000 人	体験学習室で、銅鐸・火打ち石などに直接触れ、歴史を実感できるようにする。近隣小学校と連携して利用促進を図る。無料。
子供の居場所	5,000 人	体験学習室のプログラム（「江戸時代の旅」「ちょっと昔を探してみよう」）に合わせ、子ども向けのワークシートなどを用意し、放課後や週末の子どもの居場所を提供する。無料。
地域デイケアセンター等との協働	50 人	地域のお年寄りの方々に昔の道具に接してもらったり、体験をお話してもらうなど、回想法を取り入れた事業を施行し、地域福祉に貢献すると同時に、地域とのふれあいの場の提供を目指す。
体験学習（催事）	1,000 人	野外施設の工房・体験広場等で、小学生の親子を中心に各種の体験をとおして、遊びながら歴史に触れる教室を開催する。勾玉作り、土偶作り、紙すき、ぞうり編み他を実施。21日42回開催。
土器野焼き見学	300 人	野外施設の体験広場で土器の野焼きを行い、見学者に野焼きの迫力を感じてもらう。年 3 回。無料。
竪穴住居に泊まろう	30 人	遺跡公園の復元住居に家族単位で泊まる体験。 平成 22 年 9 月 18 日（土）～19 日（日）
デリバリーパック		火起し道具や回想法グッズなどを貸し出す。 有料による貸出を検討する。
夏休み博物館たんけん隊	各回 20 人	夏休み期間中、児童生徒を対象に、普段見ることのできない博物館の裏側や見どころの解説などを行い、博物館への関心を深める。8/1・8・15・22・29日、10回開催。無料。

土器づくり教室作品展	1,000人	体験学習室を利用して、作品展を開催するとともに、土器づくりの方法を展示する。平成22年3月末～4月上旬に開催。無料。
ふるさと横浜探検	各回30～35人	横浜市内外の史跡・博物館を巡り、専門職員や外部講師が解説にあたる。年間7回（このうち3回はガイドバスツアー）。



体験学習



ふるさと横浜探検

(4) 集客イベント等

項目	内容
ラストサタデープログラム	学芸員による常設展示解説 3(2)記載のとおり 新たな顧客層獲得とリピート率向上のために、4～6月の最終土曜日や連休に小学生向け体験ミニイベントを開催する。 新たな集客対策のためのイベント事業を検討・企画する。
収蔵資料ミニ展示	博物館で収集・保管した資料で、公開する機会の無かったものや少なかったものを常設展示室のスタディサロンで展示する。あわせて資料解説も行う。3(2)記載のとおり
エントランスホールコンサートの実施	歴史博物館をより身近なものとして利用していただくため、博物館エントランスを会場にコンサートを開催する。年2回。無料。
博物館感謝デー	1月31日の開館を記念して、各種行事を実施する。

(5) 市民協働

項目	内容
ボランティアの活用	遺跡ガイドボランティア 市民ボランティアにより、博物館野外施設の解説ガイドを行うとともに生涯学習支援を行う。第6期生 60人(1期2年間)第7期にむけ公募する。 事業支援ボランティア 学校団体見学時の体験コーナー、ラストサタデープログラム等の集客イベントでの活動を行う。
地域ダイケアセンター等との協働	4(3)記載のとおり。
出張事業	学校等の要望に応じて行う土器づくり指導は、市民団体との協働で実施する。

古文書解読	横浜古文書を読む会等と協働して、古文書を読み解き、刊行事業等につなげていく。
-------	--



出張授業の様子（土器づくり）



火起こし疑似体験（事業支援ボランティア）

（6）学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。また、「 学校の博物館利用研究会 」を開催し、小学校との連携の強化を図る。 新たに 中学生対象の「教材開発研究会 」を発足し、活動を開始する。
	学校団体受付拡充のため、4・5月の月曜開館を実施する。 学校利用件数見込 500校
	各施設の学校利用促進のためのIT活用等の検討を行う。
出張授業	吉田新田などの社会科授業、土器づくり指導や体験学習などを学校等の要望に応じて行う。
教員研修	教育委員会と連携し、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修（8/1、60人）また、「吉田新田」など特定テーマに関する研修を実施。

（7）広報・広聴

項 目	内 容
広報	市営地下鉄駅構内の広報案内看板による広報（6駅） 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報（ホームページ・メールマガジン発信） 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 FM放送への話題提供 区民まつり、センター北まつりへの出店参加による広報（都筑区） 他館と連携した広報活動の実施
地域文化財情報の発信	区や学校等と連携し、講座・講演会の開催・広報印刷物発行等を行う。
市民ニーズの把握	アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。

(8) 出版

項 目	内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレットを作成する。 歴史博物館催し物案内を作成する。(年2回)
出版物発行	「横浜市歴史博物館ニュース」(発行20,000部、年2回) 「横浜市歴史博物館資料目録」第19集(発行700部) 「紀要」第15号(発行800部) 完売して在庫の無い展覧会図録の増刷を検討する。

(9) 実習生・研修生の受入

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。夏期の集中型と1年を通じた分散型の2回に分け実習を行う。約20人。
社会研修・職場体験	大学の社会研修や中高生の職場体験などを受け入れる。無料。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

ホームページをリニューアルするとともに、メールマガジンでの広報をより充実させ、博物館の存在をより身近なものにしていきます。

(1) 収蔵資料等データ入力

館蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化(2,000点)・インターネット公開を促進する。

(2) 映像資料の公開

常設展示室映像コーナーで、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する。

ビデオの学校・地域への貸出し方法を検討する。

(3) 文化財情報システムの運用

インターネット等による文化財情報の管理・発信や、グループウェアに関わる機器類の保守を行う。

インターネットを利用した情報提供を行う。アクセス見込み件数：72,500件

(4) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

6 歴史博物館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市歴史博物館及び野外施設の施設維持を行います。

(1) 横浜市歴史博物館及び野外の施設維持

(2) 研修室・講堂等の貸出及び稼働率の向上

(3) 広告料収入等の確保

VI 開港資料館事業

[運営方針]

横浜開港資料館は、開港期を中心に横浜の歴史に関する資料を収集・整理・保存し、閲覧や展示、講座・講演会、出版などを通じて市民に広く公開してきました。

今年度も展示・講演会・講座など各種事業を展開するほか、**横浜郷土史団体連絡協議会**を通じて市民団体の実施する事業にも協力し、**市民と協働する横浜開港資料館**の存在意義をアピールしていきます。

また、展示関連事業として研究成果を**新聞に連載**することによって、マスコミとの連携を強化し、横浜開港資料館の事業を広く報せていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

（1）資料の収集

項 目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に歴史資料の寄贈や寄託を受ける。
資料購入	開港期を中心とする横浜の歴史に関する国内や海外の資料、展示用資料、新聞・雑誌、文献等を、広く目配せしながら購入する。
資料の撮影	原本で収集できない歴史資料を、マイクロフィルム撮影により収集する。また、原本の保存や閲覧利用の必要上、原本資料を撮影して複製本を作成する。

（2）資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた合理的な分類方法によって整理し、目録作成のうえ閲覧利用に供する。

閲覧室での一般利用に適さない絵図・古写真・地図など画像資料はデジタル化し、閲覧室でコンピュータ画面により公開する。

（3）資料の保管

資料は、常時温度20～23度、湿度50～60%を保った収蔵庫で保管する。

収蔵資料のうち、劣化或いは破損した資料は専門業者に委託して補修を行い、大型の器物等資料は、外部の資料倉庫を借り上げ保管する。また、通年、収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの測定調査を行い、資料環境の維持管理を図る。

（4）資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展示会へ資料を貸し出す。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

（1）調査研究

歴史資料の収集・整理や歴史・資料の研究、また閲覧や企画展示等公開普及事業など、資料館業

務を遂行する上で必要な調査研究を行います。

項目	目的・意図	今年度の成果目標
【開国・開港期の歴史】 ・幕末・明治期の史跡と古記録の研究 (5/5年次)	幕末～明治初年の横浜の歴史に関する資料や史跡の所在を明らかにする	①幕末～明治初年の貿易関係資料の基礎調査 ②幕末・明治初年の市域旧家が所蔵する資料の基礎調査 ③講座・講演会などでの成果の公表
【横浜近代政治史】 ・横浜市政史の研究 (5/5年次)	明治～震災復興期の市政資料の調査を行い、周辺旧町村の実態を明らかにする。	①明治期の周辺農村資料の分析 ②明治期の市政について地主派資料を中心として調査 ③震災復興期の市政資料の調査 ④平成23年度企画展示の準備
【横浜近代経済史】 ・明治・大正期の貿易・産業に関する研究 (5/5年次)	明治・大正期の貿易・産業に関する研究及び横浜の地場産業である花卉生産と輸出に関する状況を明らかにする。また伊勢佐木町の歴史を研究する。	①阪田安雄文庫の整理、茂木商店関係資料の整理 ②石油関係資料の調査 ③盛り場伊勢佐木町かいわいの分析と平成22年度企画展示の準備
【横浜近代文化史】 ・横浜の出版文化に関する研究(5/5年次)	横浜における文化史を出版、教育史の視点で研究する。また近代歯科の歴史を研究する。	①和装本(横浜本)の書誌データの集積 ②館蔵和装本の整理 ③近代歯科の歴史の分析と平成22年度企画展示の準備
【横浜近代欧米関係史】 ・横浜外国人社会に関する研究(5/5年次)	横浜に在住した外国人社会の状況について総合的に研究する。	①居留外国人(B. H. チェンバレンやW. B. マーツ他)旧蔵資料の調査・整理と分析 ②各国外交文書(当館で複製で収集済み)中の居留地社会の変容に関する文書の調査 ③平成22年度企画展示の準備
【横浜近代アジア関係史】 ・横浜華僑・華人に関する研究(5/5年次)	横浜の華僑史について総合的に研究する。	①華僑・華人のオーラルヒストリー ②中華街関係団体との連携
【歴史情報に関する研究】 ・明治・大正期の横浜関係情報に関する研究 (5/5年次)	横浜関係新聞などから、歴史情報を集積、整理し、閲覧室等での情報発信が適切に行われるようにする。	①明治・大正期発行の新聞、雑誌からの横浜関係記事の集積、整理
*歴史資料の保存に関する調査・研究は、資料の保存管理、修復事業の過程で実施する。		

(2) 調査研究の委託

内部の専門職員だけでは実施出来ない調査研究を、外部の専門家団体と協働して行い、資料の収集・整理、普及などの業務に反映させる。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
横浜近世・近代史分野の調査研究	幕末・明治初年の貿易史と古記録に関する調査研究（5／5年次）	①幕末・明治初年の貿易関係史料の調査と分析 ②江戸期の古記録に関する調査(市内旧家が所蔵する文書を中心に)
	横浜市政及び周辺郡部の調査研究及び横浜の貿易・経済史の調査研究（5／5年次）	①明治・大正期の古記録に関する調査(市内旧家が所蔵する文書を中心に) ②周辺農村の産業、開発についての調査研究
横浜国際関係史分野の調査研究	大正・昭和期の横浜在住外国人社会の研究（3／3年次）	①関係資料の所在調査と資料分析 ②在住外国人のデータベース化と分析 ③オーラルヒストリーの実施

(3) 研究紀要の発行

「横浜開港資料館紀要」第29号を発行する。(発行1, 250部)

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語る－開化ヨコハマ－」の2室の維持管理を行う。(観覧者見込数 63,000人)

(2) 展示等事業の広報

項 目	内 容
広報誌発行	館報「開港のひろば」第108～111号を発行する。 (発行部数：13,000～15,000部)
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
その他広報	市営地下鉄駅構内の案内看板による広報（関内駅） みなとみらい線駅構内の案内看板による広報（日本大通り駅） 市営バスの車内放送による広報 インターネットによる広報 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 新聞・雑誌等への記事掲載による広報

(3) 新収資料コーナー

常設展示室に特別コーナーを設け、寄贈、寄託された資料、修復された資料等を随時紹介する。

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

（1）企画展の実施

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図
「地域メディアの誕生」展 平成22年4月24日（土） ～7月25日（日）	21,000人	日刊新聞誕生の地横浜で、明治23(1890)年に『横浜貿易新聞』が創刊された。今日の『神奈川新聞』につながる同紙の歴史をたどり、地域に果たした役割を明らかにする。
「資料に見る横浜居留外国人社会と文化」展 平成22年7月28日(水) ～10月24日(日)	16,000人	横浜には幕末から国内最大の外国人居留地が形成された。1899(明治32)年に居留地が撤廃された後も、かれらの多くは横浜に留まり、独自の社会を築いていった。この外国人社会の諸相を紹介する。
「ミナト横浜・盛り場物語」展 平成22年10月27日(水) ～平成23年1月30日(日)	15,000人	伊勢佐木町界隈は、横浜唯一の盛り場として発展をはじめてから約140年になる。芝居・寄席・映画などの興行や、名物・呉服・百貨店など横浜市民のときめきをあつめたイセザキの魅力を歴史的にさぐる。
「近代歯科」展 平成23年2月2日(水) ～平成23年4月24日(日)	11,000人	横浜は長崎と並び、日本における近代西洋医学発祥の地である。特に横浜を訪れた西洋人歯科医の活躍は、日本における近代歯科医学を大きく発展させた。ここでは、横浜における西洋人歯科医の活躍の軌跡をたどるとともに、日本および西洋の歯にまつわる様々な資料を紹介し、日本における近代歯科医学発展の歴史をふりかえる。
企画展関連事業		企画展開催にあわせ、記念講演会・講座を開催する。
平成23年度以降開催予定の企画展関連調査		企画展の準備のため、収蔵資料や他施設の資料について調査する。

（2）講座・講演会ほか

項目	参加者見込数	目的・意図
企画展関連講演会	80人	神奈川県歯科医師会との共催で「近代歯科医学と横浜」展に関連したテーマで開催する。 会場：横浜開港資料館講堂
企画展関連講座	80人	「資料に見る横浜居留外国人社会と文化」展に関連したテーマで開催する。 連続6回 会場：横浜開港資料館講堂

	80人	「ミナト横浜・盛り場物語」展に関連したテーマで開催する。 連続3回 会場：横浜開港資料館講堂
市民団体との共催講座	各80人	横浜市郷土史団体連絡協議会との共催で、地域に出向き連続講座を開催する。 連続5回、2期
体験資料講座	40人	所蔵資料などを実際に手にとってみる体験なども交えながら、当館と郷土史団体連絡協議会加盟団体が作成したテキストを教材とした講座を開催する。 連続4回 会場：横浜開港資料館講堂
放送大学との連携講座	60人	「横浜の近現代―都市としての発展」をテーマに放送大学と連携講座を実施し、横浜都市発展記念館・当館の調査研究員で講師を担当する。



講演会の様子



市民団体との共催講座

(3) 出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展など資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し、廉価で頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

<出版予定>

広報誌 横浜開港資料館報「開港のひろば」第108～111号（発行部数：13,000～15,000部）

(4) 市民協働・学校連携

(ア) 横浜郷土史団体連絡協議会の活動を指導・支援する。

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となり設立した横浜市郷土史団体連絡協議会（現在、市内18区56団体）とともに、協働事業（講座・シンポジウム・共同展示・共同出版など）を展開していく。

(イ) 地域振興会（横浜中華街発展会協同組合など）、学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体などと協働事業を行う。

(5) 外部組織への資料提供および助言・監修

(ア) 新聞連載

新聞連載を行い、当館および当館蔵資料を広く周知し、研究成果を公表する。

(イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともにその作成物について、助言・監修を行う。

(6) 資料館館務実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：10人程度

(7) 各種情報のホームページによる発信等

(ア) 画像資料等のデジタル化等

古写真・絵葉書を中心とした画像資料のデジタル化、また収蔵資料のデータベース作成を進める。

(イ) ホームページによる情報提供

ホームページの内容・体裁の改善をすすめ、開館時間やアクセス、企画展示や講座、出版など最新の資料館情報を提供する。

(ウ) ホームページによる市民ニーズの把握

ホームページ上に寄せられた市民からの意見や要望を、事業や企画の改善に反映させる。

アクセス見込件数 90,000件

(エ) 電子メールによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者に電子メールで発信する。

(8) 複製フィルムの貸出

市民や企業（出版社、テレビ局など）の求めに応じ所蔵資料の複製を提供する。提供の方法は、複製フィルムをデジタル化しCD-ROMで提供する。これにより資料情報の発信を促進する。

(9) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、収蔵資料を一般閲覧に供し、専門職員によるレファレンス、及び資料のコピーサービスを行う。 閲覧室利用見込件数 3,600件

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するための情報システム機器類の運用・保守を行います。

6 開港資料館施設維持事業（寄附行為第4条第7項）

横浜開港資料館の施設維持を行います。

(1) 横浜開港資料館の施設設備の維持管理を行う。

(2) 広告料収入等の確保

有料広告獲得や、施設の有料貸出に向けて環境整備を行う。

Ⅵ 都市発展記念館事業

[運営方針]

横浜都市発展記念館は、現在の横浜市の骨格が形成された昭和戦前期を中心に、都市横浜のあゆみについて「都市形成の歴史」「市民生活の変遷」「横浜が育んだ文化」の三つのテーマに即して調査研究を行い、その成果を展示や出版・講座などの事業を通して紹介する施設です。

今年度も横浜の都市形成の歴史をより深く理解できるよう、企画展をはじめとする企画普及事業を行います。新たな事業として、歴史地図をベースに各地点の情報を埋め込んだ「横浜歴史情報マップ」をホームページ上で公開するほか、調査研究の成果を豊富な図版とともに市民にわかりやすく伝える「図説ハマブックレットシリーズ」(仮)の刊行を開始します。

各種の事業を通じて都市発展記念館への理解を深め、集客へつなげるよう努めていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

「都市形成」「市民の暮らし」「横浜の文化」に関する資料を収集するとともに、ホームページを利用した画像資料の公開を進める。

(1) 資料の収集と保管

項目	目的・内容等
寄贈・寄託	都市形成、市民の暮らし、横浜の文化に関する資料が散逸しないように、積極的に寄贈・寄託を受け入れる。
購入	都市形成、市民の暮らし、横浜の文化に関する資料を収集する。
複製による収集	原資料で収集できないものをフィルム撮影等により収集する。
修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行う。
保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を定期的に行う。

(2) 画像資料の整理・公開

絵葉書・古写真などの画像資料のデジタル化を進め、画像データをホームページ上で公開する。

(3) 複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

「都市形成」「市民の暮らし」「横浜の文化」に関する調査研究をおこない、その成果を企画展示や紀要などで公開する。

(1) 調査研究

項目	目的・意図	今年度の成果目標
近代遺跡調査（5／5年次）	市内で発見される近代遺構の調査および出土遺物の採集・研究を行い、近代遺跡の観点から横浜の都市形成史を明らかにする。	原善三郎の別荘として建てられた旧松風閣（三溪園内）の煉瓦造遺構の発掘・実測調査をおこなう。 成果は、紀要で発表する。
横浜歴史情報マップの作成（1／1年次）	歴史地図のなかに、各地点の情報（写真など）を埋め込んだ「横浜歴史情報マップ」を作成し、ホームページ上で公開する。	歴史情報マップの基本設計をおこない、横浜市中心地区の施設等の歴史情報・資料画像をホームページ上で公開する。
昭和戦前期都市横浜における生活・文化史の調査（2／2年）	昭和戦前期の横浜の生活の実態・文化の諸相を明らかにする。	1920～30年代の横浜におけるモダニズムに関する研究文献・史料・原資料の調査を継続するとともに、調査成果を企画展にて公開する。
昭和期の写真・映像に関する調査（3／3年次）	昭和期の写真・映像資料の整理、デジタル画像への変換、および資料の分析をおこなう。	引き続き、写真・映像資料の整理、デジタル化を進め、市民が視聴できるようにする。

(2) 紀要の発行

調査研究成果をまとめて、『横浜都市発展記念館紀要』第7号を編集・発行する。

（発行予定1,000部）

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

- (1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理をおこなう（観覧者見込数 年間17,000人）。
- (2) 展示内容の普及をはかる（「4 企画普及事業」参照）。
- (3) 新収資料を中心に、現物展示資料の入れ替えを随時おこなう。
- (4) 所蔵資料や出土遺物などを随時、「掘り出し物」コーナーで紹介する。
- (5) 調査研究員が常設展示をさまざまな切り口で案内する「リレー展示解説」をおこなう。
- (6) 「旧市外電話局」第一玄関の積極的な公開・活用をおこなう。



「リレー展示解説」

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

横浜の都市形成の歴史をより深く理解するための企画展示や講座を実施します。また職業体験プログラムの作成など、学校連携事業にも取り組みます。

（1）企画展示

展示名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・内容
企画展 「モダン都市横濱案内」展 平成22年9月18日（土） ～平成23年1月30日（日）	5,000人	昭和初期の「モダン都市」化した横浜の街の様相と生活文化について、同時代のさまざまな資料から紹介する。 ○図録の作成 ○展示解説
平成23年度以降開催予定の企画展調査		平成23年度企画展開催のために資料調査などを行う。

（2）講座・講演会・歴史散歩等

項目	参加者見込数	目的・意図
夏休み子どもウォーク	30人	親子を対象にした夏休みの歴史散歩を実施する。
放送大学との連携講座	60人	「横浜の近現代—都市としての発展」をテーマに放送大学と連携講座を実施し、横浜開港資料館・当館の調査研究員が講師を担当する。

（3）出版事業

項目	目的・意図
ブックレットの刊行	横浜の都市形成の歴史、横浜の市民生活・文化を、豊富な図版とともに市民にわかりやすく伝えるものとして「図説ハマブックレット」（仮）をシリーズで刊行する。
DVD「映像でたどる昭和の横浜」シリーズ制作	昨年度に引き続き、昭和20年代から60年代にかけてのニュース映像「神奈川ニュース」をもとにした普及版DVDを制作・販売する。



夏休み子どもウォーク



DVD「映像でたどる昭和の横浜」

(4) 学校連携事業

項 目	目的・意図
クイズブックの作成	小中学生のグループ学習で常設展示をより活用してもらうために、展示内容をもとにしたクイズブックを作成する。
教員向け研修の企画	常設展示の内容をもとに教員を対象とした研修を企画し、利用を働きかける。
職業体験の受け入れ	中学生の職業体験のためのプログラムを実施する。

(5) 広報活動および調査

項 目	内 容
広報誌（館報）発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 (第14～15号、各10,000部)
印刷物作成	企画展示案内（ポスター・チラシ）、「催し物案内」（リーフレット）の作成
ホームページの運営	インターネットによる最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開など
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内を電子メールで配信する。単なる情報の羅列にとどめずに、事業担当者がわかりやすく事業について解説・案内する。
「ハマ発ブログ」の運営	当館職員の日常的な活動（展示準備や調査研究など）を、ブログ形式でタイムリーに発信し、館に親しみを持ってもらう。
マスコミ対応	<ul style="list-style-type: none"> ・放送（テレビ、ラジオ等）、新聞・雑誌（タウン誌などを含む）の取材対応と情報の提供 ・フィルムコミッションへの協力 ・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）
外部機関との提携	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布 ・観光・地域振興等関連団体への参加 ・スタンプラリー等による集客 <p>横浜フランス月間2010参加／横浜グランドミュージアムH22年度プロモーション参加（横浜コンベンションビューロー主催）／ミュージアム・クイズラリー参加（夏季、神奈川県博主催）</p>
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

（1）収蔵資料等データ入力

収蔵品、寄贈・寄託資料のデータベース化を図る。

（2）ホームページを利用した資料公開

ホームページ上で、写真・絵葉書などの画像資料を公開する。

ホームページアクセス件数見込 30,000件

6 都市発展記念館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜都市発展記念館の施設維持を行います。

（1）横浜都市発展記念館の施設維持

VIII ユーラシア文化館事業

[運営方針]

横浜ユーラシア文化館は、ユーラシア諸地域の人々や文化の交流に関する調査研究を行い、その成果を展示、出版、講演会、イベントなどを通して公開する施設です。

今年度も財団内外の専門機関や市内の施設と連携し、企画展や関連事業、イベントなどを実施します。特に、アラブ首長国連邦シャルジャ首長国建国 40 周年を記念して開催する企画展「シャルジャ、砂漠と海の文明交流」は、世界で初めてアラブ首長国シャルジャの歴史・文化を紹介する大規模な巡回展であり、ユーラシア文化館はその最終開催館を務めます。

継続して行う事業としては、インターネット蔵書検索OPACの冊数を増やすとともに、ホームページで多くの画像に親しんでもらえるよう収蔵資料のデータベースを拡充し、市民への公開、サービスの向上に努めていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 資料収集・保存

項目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	常設展で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料を館内外の収蔵庫で適切に保管する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	収蔵庫など館内の環境調査を行い、必要に応じて収蔵資料の燻蒸等の対策をとる。

(2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充する。

(3) 文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、特に貴重な元大英博物館東洋部長バジル・グレイ旧蔵書と漢籍から優先的に整理・分類を行う。整理が終わったものから順次公開していく。

項目	目的・意図
バジル・グレイ旧蔵書	蔵書の分類を行う。
洋図書・和図書・和雑誌	書誌データを入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

（1）調査研究

項目	目的・意図	今年度の成果目標
「ユーラシアの造形」 関連資料の研究 (5/5年次)	関連機関との共同で、収蔵資料、及び 関連資料の調査研究を行う。 ・共同研究	館内外のイスラーム陶器資料、絵図の 調査研究を行う。 成果は展示や図録で公開する。
メソポタミア楔形粘土 板文書の研究(8/8 年次)	当館が所蔵する粘土板文書の調査研究 を行い、展示や出版物、講座などを通 して市民や子どもたちに楔形文字粘土 板文書が使われたシュメール世界に対 する理解を深めてもらう。 ・共同研究	ホームページで楔形文字粘土板文書 を紹介し、公開点数を増やし、情報に 英文を加えるなど、拡充を進める。 ホームページによる公開は、今年度をも って一区切りとする。
横浜市内にあるユーラ シア関連資料の調査(1/1年次)	市民が保管するユーラシア各地の資料 に関する情報を収集し、記録する。ま た、市民から寄贈を受けた資料につ いては更に調査を進め、広報誌や展示 で公開する。	これまでの調査を継続するとともに、 また、市民から寄贈を受けた資料につ いては更に調査を進め、広報誌や展示 で公開する。
「シャルジャ」展開催 準備調査(1/1年次)	企画展「シャルジャ、砂漠と海の文明 交流」(2011年2/19～3/27)開催のた めの資料調査を行う。	関連機関との連携で資料を調査し、展 示資料を選択する。

（2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

（1）横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。（**観覧者見込数 19,000人**）

（2）館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」第13・14号を発行する。

（各10,000部）

（3）ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行
う。

（4）学芸員による解説（和英）を行う。実施は予約制とし、市民・利用者の希望に沿った解説内容と
なるよう努める。

（5）展示室内・ライブラリーでの「利用者・学芸員双方向コミュニケーション」の充実を図る。

（6）クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

（1）企画展

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図
企画展 「遊牧世界の造形—人と暮らす動物たち」展 平成22年5月22日（土） ～平成22年9月 5日（日）	5,000人	遊牧生活をささえる五種類の家畜たちをモチーフにした土器、青銅器、民族資料などを展示し、遊牧世界の文化への理解を深める。 ○関連事業の開催（ワークショップ等） ○図録の作成
企画展 「シャルジャ、砂漠と海の文明交流—アラビアの歴史遺産と文化」展 平成23年2月19日（土） ～平成23年3月27日（日）	3,400人	アラブ首長国連邦シャルジャ首長国建国40周年の節目にあたり、首長国の考古・歴史文化遺産、民族資料、古地図、現代作品などの資料を日本で初めて紹介。日本との友好と歴史文化の理解を深めるものとする。関連機関と連携して実施（巡回展）。 ○関連事業の開催（ワークショップ等） ○図録作成
企画展関連ギャラリートーク	各回10人	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示解説を行う。無料
平成23年度以降開催予定の企画展調査		平成23年度企画展開催のために資料調査などを行う。



ギャラリートーク



ワークショップ

（2）普及啓発

項目	参加者見込数	目的・意図
常設展関連ギャラリートーク	各回20名	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
企画展・常設展関連アート&グルメ		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画で、館の活動内容・収蔵品に対する興味を深める。

(3) 集客イベント事業

項 目	内 容
イベント開催	地元事業者との協働で、集客イベントを開催する。

(4) 広報出版・情報発信

項 目	内 容
出版物発行	広報誌「横浜ユーラシア文化館ニュース」を作成する。 (各10,000部発行、年2回)
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンク。
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
その他の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPR ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、ホテル・観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客 ・横浜フランス月間2010参加 ・横浜グランドミュージアムH22年度プロモーション参加（横浜観光コンベンション・ビューロー主催） ・ミュージアム・クイズラリー参加（夏期 神奈川県立博物館主催）
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
学校連携事業の体制作り	財団エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。職業体験プログラムの検討。

(5) 実習生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約12名。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

(1) 収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

(2) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス件数見込 45,000件

6 ユーラシア文化館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜ユーラシア文化館の施設維持を行います。

(1) 横浜ユーラシア文化館の施設維持

Ⅸ 三殿台考古館事業

[運営方針]

国指定史跡として保存されている三殿台遺跡は、学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られています。考古館は、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土遺物を、適切に保存・管理して未来へ継承するための拠点となっています。そして、市民や来訪者にその意義を伝え、理解を深めるために、案内解説や体験学習などの活動を展開しています。

今年度も、収蔵された遺物の再整理や遺跡のガイドのために、市民ボランティアを養成するなど、地域や市民と協働で事業に取り組んでいきます。

1 資料収集・保管事業（寄附行為第4条第3号）

(1) 三殿台考古館保管の考古資料について整理を進める。

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着彩、新たな復元等を行い、資料の保全を図る。

2 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 常設展示室の維持管理を行うとともに、展示内容のリニューアルを行う。

(2) 管理事務所2階は遺物整理作業や、体験教室の場として活用していく。

3 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

市民協働の一環としてボランティアによる遺跡ガイドを行います。また市民ボランティアによる収蔵資料の整理を行い、その成果の一部を展示リニューアルに活用していきます。

(1) 普及啓発

項目	参加者見込数	目的・意図
展示解説の実施	5,000人	来館者にわかりやすい展示解説を実施する。
体験学習の実施	300人	(1) 火起こし・勾玉作り教室 (実施7・8月 毎土日 各回10～15人) (2) 土偶作り教室 (実施7/18・19 事前申込 各回15人) (3) 土器作り教室 第1回 平成22年9月26日～11月13日 (4回) 第2回 平成23年1月16日～3月7日 (4回) 製作後は作品展を開催 (4) 勾玉作り・拓本教室 (実施10・12・2月各1回 事前申込み 各回15人) (5) 火起こし・勾玉作り体験については随時実施する。

土器作り教室作品展	1,000人	土器作り教室の参加者が製作した土器を展示室で展示し合わせて施文具や制作方法などを解説していく。 第1回 平成22年11月20日～12月5日(4回) 第2回 平成23年3月12日～3月27日(4回)
キャンプ in 三殿台	各回6家族	家族が遺跡内で1泊2日の宿泊体験をし、遺跡の調査と原始・古代の生活について、わかりやすく解説する。 第1回 平成22年7月24・25日 第2回 平成22年9月11・12日

(2) 広報出版

項 目	内 容
リーフレット類作成・配布	解説リーフレットを配布する。 年間事業案内チラシを作成し、配布する。
パンフレット作成	発掘50周年(平成23年)を記念した有償のパンフレット作成の準備をする。
その他の広報	インターネットを活用した広報を行う。

(3) 市民協働

項 目	内 容
三殿台遺物資料整理	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する。 埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する。
三殿台遺跡ガイドボランティア	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして解説ガイドに参加してもらい、来館者への三殿台遺跡ガイドを行うとともに、生涯学習支援を行う。

4 三殿台考古館施設維持事業(寄附行為第4条第7号)

三殿台考古館の施設維持を行います。

(1) 三殿台考古館の管理

(ア) 経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定。復元住居・住居跡保護棟・展示室を良好な状態に保つための維持管理を行う。

(イ) 開館時間の拡大

午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館する。一方、職員の施設内の定期的巡回・消火器設置拡充などの危機管理対策を実施する。また、車椅子やベビーカーでも利用しやすいようにするため、階段スロープ化等の実施について検討する。

(2) 飲料販売

施設利用者の利便を図るため、施設内で飲料を販売する。

収 益 事 業

[運営方針]

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を行います。

I 歴史博物館収益事業

1 歴史博物館収益事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

歴史博物館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営する。（館内42台、屋外140台、バス用6台）

(3) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲食物を販売する。

II 開港資料館収益事業

1 開港資料館事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、開港資料館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

(3) 喫茶室の運営

来館者の利便を図るため、付属棟に喫茶室を設け、その運営を専門業者に委託する。

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

1 都市発展記念館・ユーラシア文化館事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。